

令和8年 新年のご挨拶

謹賀新年

会長 金子守男

神奈川県 神歯大同窓会報

神奈川県歯科大学
神奈川県同窓会発行
発行人 金子 守男
https://jinshi-kd.com/
印刷所
神奈川県新聞社



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
会員の皆様におかれましては、健やかに輝かしい新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。
また、平素より本会の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は昨年六月の総会におきまして、三期目の同窓会長として引き続き本会の舵取りを任されることとなりました。橋本弘先生、小田嶋千里先生、外池利夫先生という、本会の礎を築かれ、発展をさせた歴代会長の跡を継ぎ、早いもので六年の月日が流れました。この度、再び三年の任期をいただきましたことは身の引き締まる思いであり、これまでの経験の糧に、より一層の情熱をもって職務に邁進していく所存です。

さて、昨年の大きな事業の一つとして、名簿の再編を行いました。組織の現状を正確に把握することは、強固な基盤作りの第一歩です。現在、公益社団法人神奈川県歯科大学歯科医師会には約900名の同窓生が在籍しておりますが、残念ながら我々神奈川県同窓会への入会者約700名にとどまっております。この「200名の差」を埋めることこそが、今期、私に課せられた最大の使命の一つであると考えております。

少々厳しい表現になりますが、近年は高齢の先生方がご病気やご引退を機に退会されるケースが年々増えております。組織が健全な新陳代謝を繰り返す、永続していくためには、若手の入会が不可欠です。地域で開業された先生がいらっしやいましたら、ぜひ地域歯科医師会、県歯科医師会とともに、我々同窓会への入会を積極的にお勧めいただきたいと思います。

また、皆様のご子息やご孫様が将来、母校である神奈川県歯科大学の門を叩かれることは、大学の存続と発展にとって大きな力となります。同窓会と大学が「車の両輪」と言うよりは「縁の下の力持ち」として、歩みを共にしていくことが、次代を切り拓く鍵となります。「数は力なり」と申します。我々同窓会が県歯や日歯に対し、一歯科医師としての矜持を持ち、しっかりと意見を述べられる強い組織であるためには、この

「数」という揺るぎない基盤が必要です。幸いなことに、神奈川県歯科大学が県歯の第五種会員となったことで、県歯と同窓会という「縦糸と横糸」の関係に、大学という「三本目の矢」が加わりました。これにより、かつてないほど強固な協力体制が構築されていくと確信しております。今後はこの体制を活かし、他大学同窓会との交流

もさらに深めてまいります。閉鎖的な組織に未来はありません。他大学と切磋琢磨し、情報交換を行うことで、歯科界全体の活性化に寄与してまいりたいと考えております。同時に、学術、厚生事業、そして県内各地区との連携をさらに深化させ、同窓会が一丸となって会員の皆様を支える仕組みを強化いたします。昨今の自然環境に目を向けますと、猛暑の常態化や頻発する自然災害など、私

奈川歯科大学歯科医師会には約900名の同窓生が在籍しておりますが、残念ながら我々神奈川県同窓会への入会者約700名にとどまっております。この「200名の差」を埋めることこそが、今期、私に課せられた最大の使命の一つであると考えております。

本目の矢」が加わりました。これにより、かつてないほど強固な協力体制が構築されていくと確信しております。今後はこの体制を活かし、他大学同窓会との交流

私たちは常に危機と隣り合わせにいます。「百年に一度」の災害はもはや珍しいものではなく、南海トラフ地震の発生確率も切迫しています。我々歯科医師は、有事の際にどのような行動をとるべきか。国や県、歯の動向を注視するだけでなく、県内に大学を持つ最大規模の歯科医師組織として、我々自身が積極的に意見を発信し、準備を整えておく必要があります。

結びに、本年が皆様にとって、そして母校・神奈川県歯科大学にとって飛躍の一年となりますことを切に願ひまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

数は力です。同窓生の輪を広げ、団結力のある「強い同窓会」を築くことで、会員の皆様安心して歯科医療に専念できる環境を守り抜いてまいります。

結ぶに、本年が皆様にとって、そして母校・神奈川県歯科大学にとって飛躍の一年となりますことを切に願ひまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

神奈川歯科大学神奈川同窓会
令和7年度 臨時総会
開催日時：令和7年10月25日(土) 18:30
開催場所：神奈川歯科大学横浜研修センター 7階大会議室



開会の辞 杉山義祥副会長

杉山義祥副会長が開会を
行い、金子守男会長より挨拶があった。お忙しいところご参集いただき感謝いた

・会員現況報告
新井常務理事が行った。

・会務報告
金子宣由専務理事が行った。

・1号議案
神奈川歯科大学神奈川同窓会 令和6年度歳入歳出決算(案)の承認を求むる件について

令和7年度臨時総会が開催された。
小林弘樹常務理事が司会を務め、新井宗高常務理事による総会成立の確認が行われた(出席30名、委任状数247の合計が会員総数662名の1/4を超えていることから、会則より成立確認)。

・会務報告
金子宣由専務理事が行った。

・1号議案
神奈川歯科大学神奈川同窓会 令和6年度歳入歳出決算(案)の承認を求むる件について

・2号議案
高木亮副会長より趣旨説明が行われた。

・3号議案
両角且監事からは監査報告があった。会務ならびに会計監査を行い、精密な監査の結果、この決算書が適正であることを証明することとした。

・4号議案
議長降壇後、神部哲哉副会長の閉会にて終了となった。

・5号議案
議長降壇後、神部哲哉副会長の閉会にて終了となった。

・6号議案
議長降壇後、神部哲哉副会長の閉会にて終了となった。

・7号議案
議長降壇後、神部哲哉副会長の閉会にて終了となった。



議長の伊佐常樹君



監査報告は両角且監事から

相模原支部 協賛学術講演会

特別講演会「歯科医師の身元確認」

令和7年11月15日(土曜日) 18時より 相模原大野小田急ホテルセンチュリー8階 MONDOにて開催
神奈川県神歯大同窓会 山田良広先生



講師の山本良広教授

先日の神奈川県同窓会(相模原)におきまして、母校・神奈川県立歯科大学より第18回生の山田良広先生をお招きし、長年にわたる法医学者としてのご経験と、最新の身元確認事情についてご講演いただきました。山田先生は1987年に本学を卒業後、山本勝一元教授の勧めで法医学の道へ進まれ、自治医科大学、東京大学大学院を経て、母校の法医学講座存続のために戻られたという経緯をお持ちです。

本稿では、先生が扱われた歴史的な事件や事故、そして災害現場での「歯科医師による身元確認」の重要性について、講演内容を余すところなくお伝えします。

■坂本弁護士一家殺害事件と「歯」の証言力

山田先生が母校に戻り、最初に直面した大きな事件が、オウム真理教による「坂本弁護士一家殺害事件」でした。1995年、実行犯の自供により遺体が発見されましたが、犯人グループは被害者の身元を隠すために、生前、歯を破壊するという残酷な隠滅工作を行っていました。

新潟の現場から戻されたご遺体は死蝕化し、鶴嘴(つるはし)などで損壊された

痕跡がありました。それでも歯は残っていました。ここで決め手となったのが、生前の歯科カルテとの照合です。坂本弁護士の生前のパノラレントゲンには、左下8番(親知らず)を難抜歯した記録が残っていました。遺体のレントゲンを確認したところ、確かに左下8番が欠損しており、治療痕の状況とも矛盾しなかったため、これが身元特定への決定打となりました。

当時、すでにDNA鑑定は存在していましたが、警察は「犯人が自供した場所から発見され、かつ歯科所見が一致すれば十分」と判断しました。これは、DNA鑑定には時間と費用がかかる一方、歯科所見による照合は迅速かつ確実であるという現場の判断でした。

山田先生は、「現在は何でもDNA鑑定に頼る風潮があるが、予算や時間に限りがある中で、歯による確認は極めて有効である」と強調されました。

山田先生は、「現在は何でもDNA鑑定に頼る風潮があるが、予算や時間に限りがある中で、歯による確認は極めて有効である」と強調されました。

山田先生は、「現在は何でもDNA鑑定に頼る風潮があるが、予算や時間に限りがある中で、歯による確認は極めて有効である」と強調されました。

■海難事故に見る「初動」の重要性...なだしお事件 VS KAZU1沈没事故

歯科所見の有効性は、大規模な海難事故でも浮き彫りになります。1988年の潜水艦「なだしお」と遊漁船「第一富士丸」の衝突事故では、遺体が引き揚げられるまでの間に、乗客のかけつけ歯科医院からカルテやレントゲンを回収するよう呼びかけが行われました。事前に「50代男性、左上にブリッジあり」といった特徴リストを作成して待ち構えていたことで、遺体が搬送されてきた際の身元確認は非常にスムーズ

10年前に「抜歯済み」の記録があるのに、遺体にその歯があれば、それは確実に別人です。この「矛盾しない」という証明こそが、歯科法医学における身元確認の真髄であると先生は説きます。

もちろん、DNA鑑定が不可欠な場面もあります。部分遺体や腐敗が激しい場合です。2017年の陸上自衛隊偵察機墜落事故(函館)では、機体が激しく損壊し、遺体が飛散しました。科捜研による4名の身元特定は完了していましたが、自衛隊の仲間たちは「肉片や骨片の一つひとつまで家族に返したい」と願い、現場から105点の資料を集めました。しかし、科捜研では追加検査を断られ、最終的に山田先生の研究室に持ち込まれました。

先生のチームは105点すべての資料を分析し、そのうち80点については4名の誰であるかを特定することに成功しました。しかし、残る25点は複数のDNAが混在しており、当時の技術では個人の特定に至りませんでした。DNAは混ざってしまうと解析が困難になるといふ弱点があります。また、一卵性双生児の識別ができない場合があるなど、万能ではない側面も理解しておく必要があります。

死体検案

死体を外表から検査し、死亡時あるいは死体発見時の状況や既往歴などを検討した上で死因等を判断する行為を死体検案という。

医師法第21条に直接に定められた「死体検案」は、自宅で死亡して遺族から往診を頼まれる場合、あるいは医療施設に収容された時既に死亡している患者(死体)を死体検案する場合である。

死体検案した医師が、異常があると判断し所轄警察署に届け出ることにより警察にその死が認知される。実際にはすでに警察にその死が通報され、警察により死体検案を依頼される場合も多い。あらかじめ異状死体であると見なされており、この場合の死体検案は捜査活動である検視の補助行為という側面も有する

■能登半島地震とJDATの課題

話題は災害医療にも及びました。能登半島地震では、JDAT(日本災害歯科支援チーム)が初めて出動しました。しかし、ここで法的な壁が立ちました。JDATは厚生労働省の管轄であり、その目的は歯科医療支援です。一方、遺体の検視・身元確認は警察の管轄であり、これを行うのは各都道府県の「警察歯科医会」です。

■歯科医師と「検案」の法的壁

講義の後半では、医師と歯科医師の法的な立場の違いについても言及されました。医師法には「検案」の義務が明記されていますが、歯科医師法には「診療」のみで、死体を診る規定がありません。そのため、医学部には必ず法医学教室が置かれますが、歯学部では設置が義務付けられておらず、現在も法医学講座を持つ歯学部は限られています(本学はその数少ない伝統校の一つです)。

しかし、実際の現場では歯科医師の専門性が不可欠です。京都で見つかった白骨死体の事例では、解剖医が「15歳〜40歳」と推定した遺体に対し、山田先生が歯槽腔の大きさや智歯の状況から「42歳±3歳」と鑑定したところ、実際は43歳であり、そこから捜査が急展開して犯人逮捕に至ったケースがありました。

現在、神奈川県立歯科大学は、東京歯科大学、日本大学、東京科学大学(旧東京医科歯科大学)、日本歯科大学とともに、都内近郊での身元確認研修会を主導する立場にあります。特に本学では、警察の協力のもと、実際のご遺体(腐敗死体や焼死体を含む)を用いた実習を行うなど、他大学にはない実践的な教育を行っています。東日本大震災の際、多くの開業医の先生方が現場に駆けつけましたが、凄惨な遺体を前に立ち尽くしてしまふこともありました。しかし、直接遺体を見られなくとも、生前のカルテを整理する、照合を行うなど、歯科医師としてできることは必ずあります。

山田先生は、「死因究明等推進基本法」により、身元確認における歯科医師の役割がようやく法律で明文化され尊重されるようになったと語ります。45年間にわたり母校と法医学に捧げた先生の、「歯科医師こそが最後の尊厳を守る者である」という熱いメッセージは、聴講した同窓生の胸に深く刻まれました。

私たちが神奈川県立歯科大学同窓会は、こうした法医学の知識と技術を次世代に継承し、万が一の際には社会に貢献できる歯科医師集団であり続けたいと強く感じさせられる講演会となりました。

地区 だより

旭地区 総会・忘年会開催

令和7年12月6日(土) 午後7時より、相鉄線二俣川駅北口の「大龍飯店」にて、毎年恒例となる旭支部の総会・忘年会を開催いたしました。

会員連絡手段を電話・FAXからLINEへ移行したことで、より迅速で確実な連絡が可能となり、多くの会員の皆様にご参加いただきました。

総会では、会計報告をはじめ、旭区歯科医師会の新執行部紹介、同窓会旭支部の人事報告、本部同窓会からの報告、会則改定など、多岐にわたる議題が滞りなく進行しました。

続く懇親会では、参加者それぞれの近況報告があり、和やかな雰囲気の中で宴席は大いに盛り上がりました。最後に来年度の総会日程も決まり、また元気に再会できることを願いつつお開きとなりました。



湘南地区ゴルフ大会

レイクウッドGC東コース

神歯大神奈川県同窓会湘南地区大会が9月25日快晴の中、大磯町のレイクウッドGC東コースで開催された。今年当初16名のエントリーがあったが社会保険の高点集団指導と重なり13名の参加となった。優勝は

ネット67・8グロス81の新井徹君で、ベスグロは79で回った幹事の藤江政幸君であった。今回は全員に賞品があり皆談笑し来年の参加を誓い散会となった。

養島利文 記



親睦釣り会 金沢八景 黒川丸

令和7年10月6日、親睦釣り会が開催された。当日天気良好で平潟湾を出て真沖に向かい、やや左側に進路を取り、10から15分くらいで釣り場に到着しますとアナウンスがあり、当たり前ですが何もない海の上で船は停止し、支度の出来た方から始めてくださいと再度アナウンスがあり、釣り開始となった。

船は「根」という魚の付き場の岩場の上に居て潮流に合わせて操船されます。少し根について記載しますが、海の底は砂地が続く訳ではなく、大小はありますが岩場があるそうです。今も言葉としては残っていますが、横浜本牧の下根が有名ですが、埋め立てにより、かなりの部分が消失したそうです。大きなものが



1つのものになっているわけではなく、複数の根の集合体と書いていました。シヨウザブロウと言う根の名前を筆者は覚えていません。現在の地形では本牧海釣り施設の辺りだそうです。

ポイントマップという簡単な海図には八景、小柴、追浜にはイガイ根、蛸根、沖の根の記載があります。が、いずれも大きなものと考えられます。

それ以外にも無数の根が存在し、良い根を知っていることは良い釣果につながりますので、その場所を特定できることは船宿固有の無形の財産と考えられます。釣果は釣頭で45匹、参加者全員お土産には十分な数の確保はできました。

小泉政義 記

訃報

黒木 宏一先生 横須賀市 4回
 令和7年9月21日逝去
 宮川 康一先生 緑区 1回
 令和7年9月25日逝去

ここに故人のご冥福をお祈りいたしますと共に謹んでお知らせいたします。

新入会員

1種会員 山野 悟志 都筑区 42回
 玉置 美千子 足柄 13回
 2種会員 玉置 佳嵩 足柄 44回
 玉置 勝司 足柄 13回

種別変更

1種から2種 白勢 康夫 大和市 3回

退会会員

三木慎一郎 神奈川区 7回

第1回 学術講演会

日時: 令和8年2月14日(土) 18:30
 場所: 横浜クリニック ZOOMのハイブリット
 演題: 「今だからこそ考える、変化に乗り遅れない出口戦略 M&A・閉院」
 講師: (株)エムパートナーズ代表取締役 服部 力

第2回 学術講演会

日時: 令和8年3月14日(土) 18:30
 場所: 横浜クリニック ZOOMのハイブリット
 演題: 未来への健口投資を支えるプライマリー・プライマリー・プリベンション — 100年生きる世代のために生まれる前から始める予防戦略 —
 講師: 神奈川県立神奈川大学 小児歯科学分野 教授 仲井 雪絵

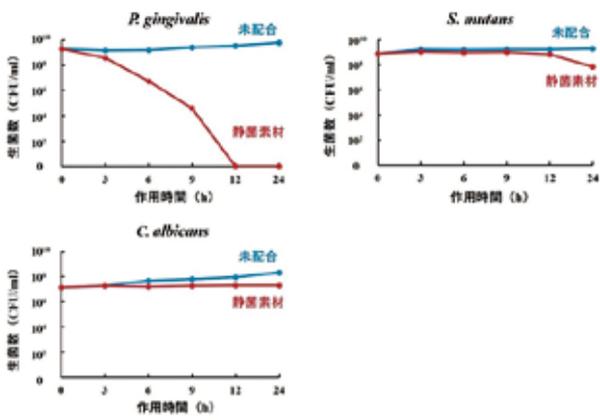


図1 静菌素材の抗菌効果
時間の経過とともに生菌数の減少が確認され、S.mutansやC.albicansに対しても増殖抑制効果が認められました。特にP.gingivalisに対しては、6時間後から顕著な減少が認められ、12時間後には生菌数が検出限界以下まで減少しました。これらの結果から、細胞壁の薄いグラム陰性菌に対して高い殺菌効果を示すことが明らかとなりました。

この課題がありました。そこで、この就寝時間を利用して口腔内環境を健全化できないかという観点から、静菌ナイトガードの開発がスタートしました。この課題を解決するため、特定の素材と技術を組み合わせて、ナイトガード装着中に歯周病原細菌の増殖を抑制することに成功しました。これにより、以下のような効果が期待できます。

清潔な状態の維持：細菌の増殖を抑えることで、衛生的に使用できます。

口臭の軽減：口臭の原因となる細菌を減らすことで、朝起きたときの口のネバつきや不快感が軽減されます。

予防効果：口腔内の細菌バランスを整えることで、歯周病やう蝕の予防にもつながります。また、静菌ナイトガードは、硬いプラスチック(PCTG)の外側と柔らかいプラスチック(TPU)の内側を特許技術で貼り合わせた2層構造になっています。

静菌ナイトガードは、装着感に優れ、着脱も容易です。さらに、歯根膜が存在しないインプラント体への負担を軽減できるほか、咬合面には即時重合レジンの使用も可能です。

本製品は、歯ぎしりや食いしばりの緩和、顎関節への負担軽減、補綴物やインプラントの保護といった従来の役割に加え、静菌機能を備えていることにより、口腔ケアの推進や全身の健康に関わる疾患の予防にも貢献することが期待されます。

なお、ナイトガードに付与された静菌機能

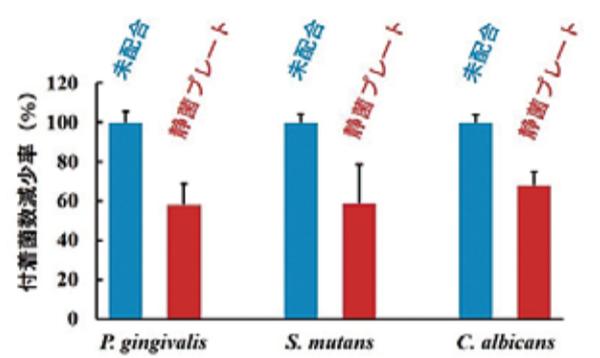


図2 プレート表面への菌の付着性
P.gingivalis、S.mutans、およびC.albicansにおいて、青色で示した静菌素材未配合のプレートと比較し、赤色で示した静菌素材配合プレートでは、付着菌数の有意な減少が確認されました。

動状態まで把握できるようになりました。これにより、静菌ナイトガードは、装着感に優れ、着脱も容易です。さらに、歯根膜が存在しないインプラント体への負担を軽減できるほか、咬合面には即時重合レジンの使用も可能です。

本製品は、歯ぎしりや食いしばりの緩和、顎関節への負担軽減、補綴物やインプラントの保護といった従来の役割に加え、静菌機能を備えていることにより、口腔ケアの推進や全身の健康に関わる疾患の予防にも貢献することが期待されます。

なお、ナイトガードに付与された静菌機能

これは、細菌を死滅させる「殺菌」ではなく、細菌の増殖を抑制する「静菌」の考え方に基づいています。歯周病原細菌の多くは、細胞壁の薄いグラム陰性菌であることから、本製品はこれらの細菌に対して特に効果的に作用します。

私たちは、静菌ナイトガードの装着が口腔内細菌叢に与える影響についても、ゲノム解析を利用して確認しています。

アメリカのフォーサイス研究所が管理する「ヒトオーラルマイクロバイオームデータベース(eHOMD)」によると、現在、口腔細菌種は774種に上ります。そのうち、58%は正しく命名されていますが、16%は培養できるものの未命名、26%は未培養系統群(難培養微生物)です。このことから、まだ多くの未解明な生物が存在し、その鑑別、さらには細菌の活

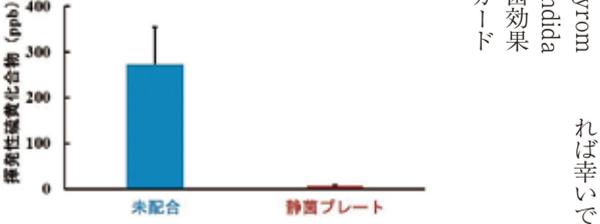
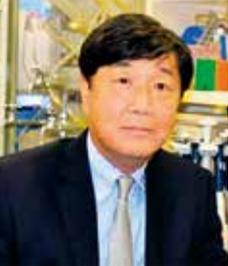


図4 消臭効果について
静菌ナイトガードは、臭気成分の吸着が少なく、口臭の原因物質を分解する作用を有しており、口臭の抑制に優れていることが確認されました。

はじめに
従来、就寝中の歯ぎしりや食いしばりの対策としてはナイトガードが一般的でした。しかし、この度、単に歯を保護するだけでなく、口腔内を清潔に保つ静菌機能を付与した画期的な「静菌ナイトガード」を開発しました。この静菌ナイトガードは、就寝中に口腔内細菌が増加することに着目し、その時間帯を有効活用することで、口腔内細菌叢をより健全な状態に導くという発想から生まれたものです。

今回は、この静菌ナイトガードに関する基礎および臨床研究の成果をご紹介します。

2025年7月27日、神奈川県神奈川大学附属横浜研修センターで開催した講演会では、多くの歯科医師や歯



浜田信城 先生

科技工士の方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。講演会は、本学の卒業生であり、NPO法人日本・アジア口腔保健支援機構(JAOS)理事長も務める、戸塚区で開業されている渡辺秀司先生の司会で進行了しました。

まず、渡辺先生より漢方の歯科診療への応用と静菌ナイトガードの活用法についてご講演いただきました。続いて、浜田が口腔内細菌の概要と静菌ナイトガードの開発の経緯について説明し、口腔細菌学分野の稲葉啓太郎講師が基礎研究データを解説しました。さらに、金沢区で開業されている遠山歳三特任准教授より、患者様に利用した症例報告を行っていただきました。

ナイトガードに静菌機能を付与した背景と効果
夜間の就寝中は唾液の分泌量が減少し、口腔内で細菌が繁殖しやすくなります。従来のナイトガードは、装着中に細菌が増殖しやすく、不衛生になりやすいと

いう課題がありました。そこで、この就寝時間を利用して口腔内環境を健全化できないかという観点から、静菌ナイトガードの開発がスタートしました。この課題を解決するため、特定の素材と技術を組み合わせて、ナイトガード装着中に歯周病原細菌の増殖を抑制することに成功しました。これにより、以下のような効果が期待できます。

清潔な状態の維持：細菌の増殖を抑えることで、衛生的に使用できます。

口臭の軽減：口臭の原因となる細菌を減らすことで、朝起きたときの口のネバつきや不快感が軽減されます。

予防効果：口腔内の細菌バランスを整えることで、歯周病やう蝕の予防にもつながります。また、静菌ナイトガードは、硬いプラスチック(PCTG)の外側と柔らかいプラスチック(TPU)の内側を特許技術で貼り合わせた2層構造になっています。

静菌ナイトガードは、装着感に優れ、着脱も容易です。さらに、歯根膜が存在しないインプラント体への負担を軽減できるほか、咬合面には即時重合レジンの使用も可能です。

本製品は、歯ぎしりや食いしばりの緩和、顎関節への負担軽減、補綴物やインプラントの保護といった従来の役割に加え、静菌機能を備えていることにより、口腔ケアの推進や全身の健康に関わる疾患の予防にも貢献することが期待されます。

なお、ナイトガードに付与された静菌機能

第40回
聞きたい授業！
浜田信城先生
神奈川歯科大学
分子生物学講座
口腔細菌学分野教授

これまで世界中で義歯に抗菌性を付与する試みは多数行われてきましたが、材料の物性に影響を与えず、抗菌・消臭機能を持つ実用的な素材の開発には至っていませんでした。

私たちは、静菌素材がStreptococcus mutans、Porphyromonas gingivalis、Candida albicansに対して静菌効果を示し、さらに、この静菌素材を含んだアクリルレジンディスクが、弾性率や吸水性に影響を与えず、付着菌数を減らすことを確認しました。また、持続的な消臭効果も確認されています。

口腔内の微生物は、う蝕や歯周病といった口腔疾患だけでなく、誤嚥性肺炎などの全身疾患の発症にも関与しており、その重要性が近年明らかになってきました。特に義歯やナイトガードといった補綴物は、細菌の温床となるため、適切な口腔ケアが不可欠です。私たちは、口腔環境を健全に

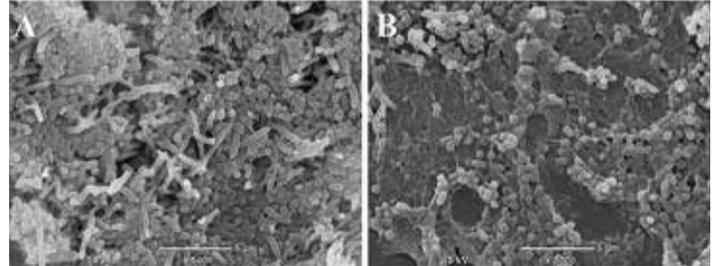


図3 ナイトガードへの細菌付着像
それぞれのディスクを3日間装着後、電子顕微鏡観察を行いました。未配合ナイトガード(A)では、層状に集まった球菌の中に多数の桿菌が観察されました。一方、静菌ナイトガード(B)では付着細菌数が少なく、ほとんどが球菌であることが確認されました。

維持することを目的に、細菌の増殖を抑制する静菌作用を持つ歯科材料の開発に取り組みできました。

当初は静菌効果を有する義歯の開発を試みましたが、薬機法に基づく医療機器としての申請ハードルが高いことを知り、代わりにスプリント材料として静菌ナイトガードプレートの開発を進めました。現在は一般医療機器(クラスI)として届出を完了しています。また、「静菌ナイトガード」の名称は商標登録済みです。ただし、保険収載まで時間を要するため、現時点では自由診療でのご利用となります。

静菌素材は、Streptococcus mutans、Porphyromonas gingivalis、Candida albicansに対して殺菌効果を示し、静菌ナイトガードプレートへの菌の付着も減少することが判明しています。(図1、図2、図3)

特に口臭抑制に優れ、装着感がよく、着脱も容易で、起床時の口腔内のネバつきがなくなります。(図4)

さらに、歯周病原細菌が減少することで、歯周病予

防にも効果的であることが明らかになりました。これらの効果は、2年以上持続することも確認されています。これらの取り組みを通じて、すべての人々の健康とQOL(生活の質)の向上に貢献できると信じています。また、日々の歯磨きや定期的な歯科検診と併用することで、より効果的な口腔ケアの実現が期待されます。

静菌ナイトガード®発注に関して
現在、本学附属病院(横須賀)、横浜クリニック、歯科・健脳クリニック日本橋で診療にご利用いただいております。

ご利用をご検討される先生は、インターネットで「静菌ナイトガード」を検索し、「BACTERIOSTATIC PLATE」のホームページ右上の「お問い合わせ」ボタンからご連絡ください。お問い合わせ後、技工所(デンタルサプライ)より、技工指示書や技工料などに関するご連絡が返信される仕組みとなっております。

ぜひ一度お試しください。